「フェアトレード大学」静岡文化芸術大

公正な貿易チョコで発信

開発途上国の生産品を適正価格で取引するフェアトレード運動に取り組む「フェアトレード大学」に20

カカオ生産者の案内で農園を見学する静岡文化芸術大の学生ら＝２月、フィリピン・ミンダナオ島（同大提供）

18年、国内で初めて認定された静岡文化芸術大（浜松市中区）で、フィリピンのカカオを使ったフェアトレード商品「はままつチョコ」の開発計画が進んでいる。学生たちが菓子メーカーなどの協力を得て、カカオの調達から商品企画、販売まで全過程を担う一大プロジェクト。〝大学発〟の独自商品として20年12月完成を目指している。

プロジェクトはフェアトレード大学認定を受け、「第1号として今後のモデルとなる事業を」と始まった。学生と教員が名を連ねる推進委員会を設置し、運動に取り組むサークルの学生の意見も踏まえて、商品にチョコレートを選定。調達先は近年栽培を始め、まだ生産地として確立されていないフィリピンに決めた。

カカオ調達から商品企画、販売…学生中心に計画

プロジェクト参加を希望した学生は約30人。指導する下沢嶽教授(60)とともに2月、9人がフィリピン・ミンダナオ島の生産現場を訪問し、生産者から栽培方法や経済状況などを聞いた。

5月下旬には報告会を同大で開催。「生産者の所得向上を図るためにどのような取引方法が適切か検討したい」「環境に配慮した栽培ができているか調査がさらに必要」と課題を挙げた。

学生たちは商品開発、営業など五つの役割に分かれ、今後は商品を監修する菓子メーカーとの試作、包装デザインの作成、販路開拓を進める。7月にはクラウドファンディングで50万円の資金調達に挑戦する。

代表の長屋桜子さん（国際文化学科3年）と青山友香さん（デザイン学科2年）は「浜松とフェアトレードをもっと知ってもらえる取り組みになれば」と意気込む。（浜松総局・市川淳一朗）

プロジェクトの報告会を行う学生たち＝24日、浜松市中区の静岡文化芸術大

フェアトレード大学認証　2003年に英国で始まり、欧米を中心に170余りの大学が取得。英国では大学がフェアトレード運動の中核を担っている。静岡文化芸術大がある浜松市は17年11月、国内４都市目となるフェアトレードタウンの認証を受けている。

© 静岡新聞社　無断複製転載を禁じます